

(短歌) 先帝陛下を悼み奉りて……………河崎なつ 六七
題いろく……………六八

偶感

三重だより……………鷺尾幾子 七四
秋日雜感……………文科三年 田邊馨 七七

彙報

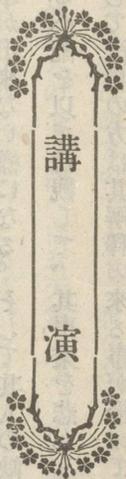
第廿四回文科學術談話會……………七九
第三回會計決算報告……………七九

交詢

母校だより……………八〇
日本海の唯中より……………し ま 八二
鹿兒島より……………加賀山貞 八五
備中玉島より……………田中元惠 八五
春より秋へ……………河崎なつ 八六

文科學術談話會々誌

第四號



滑稽美に就いての談話大要

文學博士 芳賀 矢 一

文學は美術の一種である。文學の純なもの即ち詩で、詩は美を表すのが目的である。美には普通の美と崇高美、悲壯美、滑稽美などがある。是等を表はすのが純文學の目的であつて、それが如何に表れて居るかが、文學の價値である。悲壯美は演劇としては悲劇に表れ、滑稽美は喜劇に表れて居る。劇は日本では徳川時代に於て著しく進歩したが、尙遑れば謠曲もある。支那からも西洋からも影響せられずに日本獨特の發達を遂げたのである。殊に徳川時代に於る平民文學が貴族的文學と並び起つた事は自ら國民の元氣表れたのであつて、他の東洋諸國に類例を見ない。日本國勃興の氣運は既にあらはれて居る。只其材料趣味等に卑いものがあつたのは、公衆の程度が然らしめたので

ある。當時の第一流の人物が筆を平民文學に取らなかつた爲で、若し新井白石の様な人が、純文學に筆を染めたならば、或はゲーテ、シルレル以上の作品が出来たかも知れないとおもふ。兎に角從來の文學が稍低い程度にありながら、尙獨特の發達をしたといふ事は其の後、日本人が大に起る前兆とも見るべきものであつた。平安時代には上下擧つて支那文學に心酔して居る間に、女子の手によつて純日本文學が起つたのである。一方に抑へられると、其反動として一方に起る所の抑へ切れぬ元氣が見える。故に今後は必ず上下一致の高尙な文學が起ることが豫想せられるのである。又さうなければならぬ。

今日は滑稽美について如何なる點に其美が存在するかといふことを簡單に話す。元來滑稽美は悲壯美と共に大功なるものである。これによつて、喜劇と悲劇とが出来る。悲劇では偉大な人物を出し、其力を出来るだけ發揮せしめるのである。然るにこれが今一層大なる或力に制せられて其力を十分に伸ばす事が出来ない様になる。そして其人の缺點が原因になつて、遂に破壊せられる。吾人はこれを大なる心配を以て傍觀して、其事業を悲しみ、其人の心事を思つて悲壯美を感じるのである。それに對して滑稽の方は其解釋の來る事が極めて早く、而も其解け方がそれ程客觀者に強い悲しみを與へないで、むしろ愉快な感を與へ、其結果として生理上身体上に笑を催すのである。故に悲壯美は其事が極めて眞面目であるが滑稽美はさうでないのである。又悲壯美には絶大の事業を伴

ひ、滑稽美にはむしろ日常社會の通常人物が日常の些事を行へばよいのである。滑稽美の起るには自己が他から蒙る場合と、自ら仕出す場合とがある。何れか一方は不正當な譯があつて、それが不正當であると分つた時に起るのである。世の中があるべき通りに行はれ、ば可笑しくないが、さうでない時に滑稽が起るので、例へばお天氣のよいに傘をさし、白晝に提燈をともす様な事は、共に不正當であるから、可笑しいのである。それは其不正當が理解せられた時に可笑しいので、言語の上の落語、狂言の滑稽も、畢竟それに歸着するのである。不正當が正當らしく見える事は、社會上には極めて多い。それで悲劇よりも喜劇の方が多いのである。悲劇にこる人物は大人物で、大希望、大抱負を持つて居るのが頓挫して、悲しみを生ずるのであるが、喜劇には之がいらぬ。不正當が滑稽であるから、悲劇にこるべき程の大人物は喜劇にはならない。例へば男女間の戀でも、愚者の戀が成立しない場合は滑稽になるが、大人物が眞面目な戀をして成立しない時には滑稽を生じない。滑稽美は同情を要しないが、悲壯美は同情によつて吾人の涙をそゝがせるのである。人がどぶに落ちた時に笑ふ人があるけれども、同情を以て之れを見れば笑ふ事は出来ない。故に自己の境遇に比べては滑稽美は成立しないのである。隨つて其時代によつて取る材料も幾分か違ふ。昔は盲人啞者等を材料としたのは西洋にも、日本の狂言の中にもある。併しこれは其時代に於て盲人啞者等を可笑しく思つて同情しなかつたからである。今日では盲啞學校も建てる程であるから、決して

滑稽にはならない。不具者でなくても馬鹿者にも親の遺傳や境遇等を察して低能兒であるなどと考ふる人の頭には滑稽の材料とする事はむしろ不快に感ずるのである。社會の進歩によつて此の様に變ずる事はこれ滑稽美が同情を許さない證據である。

日本の狂言などでも、何等か惡戯をして人を陥れようとした事があらはれて滑稽となるが、これはかの悲劇で、英雄豪傑の事業が頓挫した時と同じやうに、いはゆる破裂を意味するが、悲劇の場合のやうに長い心配はいらない。實は其破綻は初からあらはれて居るのであつて、安心して其結果を待つことが出来るのである。これが若し眞面目で、騙しおほせるならば、滑稽美は成立しない。すべて此様に外から自然に蒙る事、或は自ら仕出す事も其滑稽になる爲には目的と手段とが齟齬するの必要である。目的と手段との懸隔の多い時に、初めて滑稽を生するのである。つまり不正當の事であるからである。それを吾人が常識を以て不正當だと判断し得る事が滑稽美を解する所以である。例へば小溝をこび越えるのに遠くからねらつて大仕掛にとべをかしい。又大目的に小手段を用ひるのをかしい。狂文や俳文の如きもの、面白味も聖人君子の言行を匹夫下郎の言の如くに取扱ひ匹夫下郎の言行を聖人君子の言行の如くいふ所に可笑味があるのである。眞面目であるべきものを滑稽に、滑稽であるべきものを眞面目に書くからをかしいのである。不正當な待遇不相當な行爲が暴露する時にをかしいのである。

滑稽美には種々の種類がある。社會的、政治的、或は學者に訴ふるもの、通俗に訴ふるもの等、其他色々あるけれども、要するに其源は一つである。さうして滑稽美は人間界に成立つので、動物界には成立たない。普通の美は外界の自然動物などにもみなあるけれども、悲壯美滑稽美は自然物人間以外の動物にはないのである。

けれども動物を人間らしく擬人的に取扱ふ時はをかしみを生ずるのである。猫が頬冠りをしたり、猿がちやんちやんこを着たりするのは、人間の眞似であるから、をかしい。猿芝居の可笑しいのも、亦同じ道理である。凡て動物に言葉を使はせても擬人化して用ふるから滑稽になるのである。つまり不正當なのがをかしいのである。

以上は見事の出來る客觀的のものであるが、また外に主觀的で知力で作るものがある。これを俗に洒落といふ。即ち言語の滑稽で、言葉をもぢるので、語呂合せ地口などはこれである。是もやはり正當なもの、眞似をするので、昔から行はれたのである。例へば、

盗人を捕へてみれば我子なり。

むすび玉ほどいてみれば長くなり。

羽織やきせる。

の類である。このやうに原の文句を多少變へて作るのが、地口や語呂合である。謠曲勸進帳を疊

屋奉加帳に作り替へたやうなのは古人の名作を真似するので、要するに言葉をもぢるので、謠曲の
パロヂーである。狂歌狂文の趣味はこれによるもので、昔の上品なものに、形式だけを似せて、全
く違つた内容のものを作るからをかしい。これも要するに不相當であるのである。また顛倒し、或
は音を挿入して形をかへた滑稽もある。

おきちやキのキみキづキ、めあかるふ おちやのみづ あめがふる

又語の同音を利用した洒落は日本には殊に多い。日本人の洒落といふよりも、古くから文學上に
用ひられて居る枕詞、懸詞、序歌など皆これである。

梓弓はる わけも何もしら 髪の爺

月はひとつ影は二つみつ 潮の

などは日本文學の裝飾であつて、これは日本語は冗長故、終の部分省いて、他の文に轉ずるも
のである。即ち言葉の一部を取ると、他の話の一部となる。それを懸詞とするのである。

ありがたいなら芋虫や鯨

のやうなので、落語の落、一口話などは皆これで成立つ。

夏は人は氷をあいす

章魚には足が八本ある、いかにも

の如きであらゆる言語の上の洒落は人爲的に拵へたものである。

外國には活字の誤で滑稽を組立てる事が多い。漢字の如きは扁旁など間違ひ易い。是等は皆主觀
的の滑稽である。

また論理の誤がある。例へば形容詞と名詞の相添はない時はをかしい。けれども正當を知らない
人から見ればをかしくはない。

四角な卵

動詞と名詞と添はないものでは

お臍が茶を沸かす ふしの穴がのぞく

といふ如きも矛盾であるからをかしい。

また自然に分りきつた事をいふのも亦をかしい。

雨がふる時はお天氣がわるい 兄は弟より年が上

といふ様なのは論理的には誤ではないけれどもをかしい。また

一所懸命で勉強したから落第した。といふが如きも論理上の滑稽である。

譬諭は文學上大切なもので古事記の始めに、くらげなす漂へる國、とあるが如き、白扇倒懸東海
天の如き、をかしくはないが、その比較が不相當になるとをかしくなる。

のれんと腕押しをする、といふ様な類で

狎か噓をした様な顔 砂糖屋の門を駆つて通るやう

米つきばつたがお辭儀をするやう 家鴨が文庫背負つて歩くやう

雪隠で槍をつかふやう

などはあまりに離れ方の甚だしい形容であるからをかしい。「卵に目鼻」「泣面に蜂」は相等な比喻であるのでをかしくない。

これまでの話は可笑美 Omie に關しての話であるけれども、まだ外に西洋にはユーモアといふものがある。可笑は普通の人が日常のものに比べて矛盾を見るのであるが、ユーモアは詩人の認むる諧謔で、是れにはむしろ笑を伴ふよりも、却りて冷やかな涙を伴ふものである。詩人には世を觀察して現實の世が理想の世界より遠いといふ事を感じて、これを慷慨し改良しようと歎く詩人がある。又或は單に悲觀するもの即ち悲哀詩人があり、又之を樂觀する樂天詩人がある。ユーモリストは理想に遠い現實の世の矛盾弱點を認めて之を達觀し、人の眞面目に見て矛盾のない所に矛盾を發見し、世間でつまらぬものと思ふ所にかへつて眞理のあるやうな事を發揮する。俳人には餘程この傾がある。又夢想兵胡蝶物語や、西鶴の作なども一方からみるとユーモリズムの傾向がある。現今の夏目漱石などもよほごこの傾がある。(完)

◎明治年間に於ける女子訓の變遷

文學博士 吉田 熊次

私のお話する題目は明治年間に於ける女子訓の變遷となつて居ますが實は題目の方が大き過ぎますので私の申す事はそんなに大きい事でもなく又掲げた題目のやうに興味あるものでもありません。

私は修身科の擔當教師として明治年間に於ける女子修身書の變遷を研究しようと思つて餘程前に文部省の修身教科書調査の時文部省の圖書館にある古い修身書の女子に關する部分だけ取つて女子の修身に關する教を調べて見ました。本日お話しますのは其の中の一部であります。明治年間に於ける修身書の變遷殊に小學校に於ける修身書の變遷は大体三時期に分つことがよいと思ひます。なほ委しくすれば四期になります。初めは明治四五年より十四年まで即小學校教則が定まつて教授要目の大体が定まつた時までをいひます。第二期は十四年から二十三年即ち教育勅語の發布迄でありまして第三期は二十三年から三十七年國定修身書の出來るまでをいひます。卅七年から現今至るまでを第四期に相當するものと致します。

第一の時期といふのは未だ教育の細かな規定が定まらない時で女子の修身書も區々でありました